

公益社団法人日本技術士会 CPD行事 報告書

| | | |
|-------|--|-----------|
| 開始日時 | 2022 年 2 月 10 日 (木) | 18 時 00 分 |
| 終了日時 | 2022 年 2 月 10 日 (土) | 20 時 30 分 |
| 名 称 | 第 103 回 CPD 講演会 | |
| 主 催 者 | 千葉県庁技術士会、日本技術士会千葉県支部、船橋市役所技術士会、千葉工業大学技術士会 | |
| 開催場所 | ZOOM 講演 | |
| 行事内容 | 1. 主催者挨拶 (千葉県庁技術士会) 2. 講演:「防災・地域づくりの基本スタンスと今後の発展の方向性」 3. 講師: 加藤 剛史 氏 (東京大学生産技術研究所教授/社会科学研究所特任教授) | |
| 参加人数 | 19 名 (日本技術士会千葉県支部参加者) | |

【講演概要】

都市計画の専門家の講師から、防災・地域づくりにおいて、災害時自立生活圏（複合災害に備える）の構築と防災（も）まちづくりが重要であると述べられた。主な内容は以下である。

- ・過去の災害の教訓の継承が重要 地域内で止まり、行政内部、政府に蓄積されていない
- ・災害への備えは、自助、共助、公助のバランス（足りていないことを理解し共有する、対応できない部分は何かを認識する）と災害問題のバランス感覚が重要
- ・絶対安全（防災）確保からリスク許容の生活へ
- ・科学シミュレーション至上主義から自然現象の不確実性、計算誤差、データ誤差の認識が必要
- ・全国スタンダード主義から地域特性に対応した多様なソリューションが重要
- ・行政においては、財政難と人員削減から社会のニーズに応えづらくなっているため、多目的化（目的の複合化）や市民参加で新しいものを創作できるように相互連携が不可欠
- ・災害時膨らむ需要を減らし（自助の増強、支援の対象を社会的弱者に絞る）、公の資源（災害時遊休施設の活用、災害に対して安全なオープンスペースの活用）を膨らませる
- ・地域が動けば、社会がかわる（国・政府が動く）
- ・圏域内に新たな機能を創出する（災害対応の拠点空間の整備・確保等）
- ・温故創新 過去の知恵の掘り起こしと新技術の適用が重要
- ・防災だけでは取り組みにくいので、防災（も）まちづくり（地域づくり、都市づくり、まちづくりとともに）で、日常の中に織り込めるようにする

【質疑等】行政の技術士会から業務上のアドバイスの質問があったが、技術士活動にも参考となった。



講師・加藤孝明 (東京大学)

加藤講師 講演風景